

1 学校教育目標  
**あい あしのこ 「学びあい・みとめあい・みがきあい」**



5 総括表

2 学校経営ビジョン

(1) めざす学校の姿

明るく、楽しい学校	いきいきと活動する学校	安全で、安心な学校
-----------	-------------	-----------

(2) 教育目標達成のための基本方針

「確かな学力」の保証	「心の教育」の充実	「生きる力」の育成	「開かれた学校」づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「読み・書き・計算」等の基礎力の育成</li> <li>○基本的学習習慣の定着</li> <li>○学びあい等指導方法の工夫</li> <li>○ICT利活用教育の推進</li> <li>○小中連携による学力向上(小中一貫に向けた研究)</li> <li>○家庭学習の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳教育・人権教育の充実</li> <li>○教育相談、特別支援教育体制の充実</li> <li>○人としての「あいうえお」の育成</li> <li>○「あいさつ」「ことばづかい」の指導</li> <li>○読書活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的生活習慣や規範意識の育成</li> <li>○命・健康・安全教育の推進</li> <li>○体験的活動や勤労奉仕的な活動の実践</li> <li>○ふるさと学習の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報発信と収集</li> <li>○家庭(P.T.A)・学校評議員・地域諸機関との連携</li> <li>○学校評価の改善と公表</li> <li>○学校・地域ボランティアの推進(学校地域夢つなぎ隊の活用)</li> </ul>

めざす教師の姿(教育あい)	めざす子どもの姿(自分あい)	めざす家庭の姿(子どもあい)
<ul style="list-style-type: none"> <li>☆笑顔と活気のある教師</li> <li>☆一人一人の子どもたちを大切にしている教師</li> <li>☆指導力の向上に努め、創造性豊かな教師</li> <li>☆信頼される教師</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎<input checked="" type="checkbox"/>あかるく、礼儀正しい子ども</li> <li>◎<input checked="" type="checkbox"/>しっかり学びあい、考える子ども</li> <li>◎<input checked="" type="checkbox"/>のびのびと、たくましい子ども</li> <li>◎<input checked="" type="checkbox"/>こまったときは、助け合う子ども</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇基本的生活習慣(芦刈家庭教育指針)の育成に取り組む家庭</li> <li>◇子どもの「やすらぎの場」としての家庭づくり</li> <li>◇積極的な来校と連携・協力をする保護者(学校ボランティア活動等)</li> </ul>

3 本年度の重点目標 : 4 前年度の成果と課題

<p>1 「確かな学力」                      - 基礎基本の定着と学力の向上</p>	<p>1 「確かな学力」- 基礎基本の定着と学力の向上                      全国や県の学習状況調査では全国平均を上まわっており、学力向上の目標を達成できた。国語ではBがより高く、国語への関心・意欲・態度も高い。文章量の多い資料からの必要な情報の読み取りにやや課題がある。算数A、Bも全国平均を大きく上回っている。のびのびタイムや習熟の時間など基礎的な計算力を身につける学習とともに、考える授業づくりに力を入れ、個に応じたきめ細かな指導を継続する。</p>
<p>2 「心の教育」                      - 教育相談の体制作りと充実</p>	<p>2 「心の教育」- 教育相談の体制作りと充実                      教育相談研修会を定期的実施し、市子ども支援センターやスクールカウンセラーとの連携を図ることができた。人権集会やなかよしアンケートを実施して児童の人権意識を高めた。学校が楽しいと答えた児童97%の一方、相談する友達がないと答えた児童もあり、今後も気軽に話せる教育相談体制を整備し、掲示コーナーを設置したりする。</p>
<p>3 「生きる力の育成」                      - 基本的な生活・学習習慣の定着</p>	<p>3 「生きる力の育成」- 基本的な生活習慣、学習習慣の定着                      基本的な生活習慣の定着のため、芦刈町内幼・小・中学校共通の「家庭教育指針」がある。本校は年間7回の「家庭教育指針強化週間」を設け、学校と家庭が連携して取り組んでいる。早寝、早起き、朝ごはん、挨拶の励行など基本的な生活習慣が向上し、家庭学習の習慣もよくなった。就寝時刻の遅さが課題である。</p>
<p>4 「開かれた学校」                      - 家庭・地域・保護者との連携</p>	<p>4 「開かれた学校」- 家庭・地域・保護者との連携                      「学校だより」「小中一貫だより」「きめ細かな指導だより」「学級通信」等により情報を伝えている。学校支援ボランティアの活動も一層充実してきた。その活動は多方面に広がり、登録が170人関与授業数は43を教えた。この方々によって地域へ情報を発信したり地域の声も聞きとったりできている。</p>

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
教育活動	① 「確かな学力」基礎基本の定着と学力の向上			
	●学力向上	基礎・基本の定着と確かな学力の向上	「読み、書き、計算」力の育成 CRT(算数)3観点(関心・意欲・態度除く)で全国比2ポイント以上をめざす。教師の授業力を向上させる。  現在の豊かな個人読書量を維持する。	・特設タイム(読みとき・のびのびタイム等)を設定し、読書の習慣化、話す力、読解力、計算力向上を目指す。 ・少人数やTT等指導形態の利点や特性を生かし、児童一人一人に応じたきめ細かな指導を単元毎に実施する。 ・「芦刈学習メソッド」をもとに、児童が主体的に取り組み・考える授業を日々実践する。 ・講師招聘による理論研究会を行う。 ・各学年グループを中心に全員が、授業を見せ合う等の実践研究を行う。 ・図書館の開館時間を7時50分とし、朝の利用促進を図る。平成24年度の貸出冊数全校40000冊を目標とし、委員会を中心に取り組む。
	【成果と課題】学校評価アンケートでは、保護者も児童も90%以上と昨年同様の高い評価だった。また、教師全員が授業力が向上したと答えている。これは、TTなどのきめ細かな指導やのびのびタイム等の特設タイムの継続した指導や児童一人ひとりに対応する毎日の取り組み、そして、教師全員が授業研究に真摯に取り組んできた成果と思われる。今後も継続していきたい。			【評価】A 【継続】 【理由】 成果は十分に見られたが、重点課題として継続する。
教育活動	② ICT利活用教育の推進			
	●ICT利活用教育の推進	ICT利活用教育に関する研修会への参加	佐賀県、小城市が主催するICT利活用教育研修会に1回以上参加する。	・佐賀県教育センターの講座を受講する。 ・佐賀県教育委員会主催の講座を積極的に受講する。 ・小城市教育委員会主催の講座を積極的に受講する。 ・情報教育担当を中心に校内研修会を開催する。
	【成果と課題】ICT利活用教育研修会への参加で、ICT機器の授業への活用法がわかった。8月は校内研修でICT機器紹介や使用法を学び、授業での利活用を職員全員で考えることができた。9月から実際に電子黒板を用いた授業を展開して効果をあげた。全教科でICTの有効活用場面を考え、継続している。課題はICT機器の使用に伴う情報モラルについての研修等を充実させることである。ICTの利活用によって学習成果を向上させ、児童の情報モラルの向上に努める。			【評価】A 【継続※】 【評価の観点を変更】 【理由】 ICT利活用による学習成果を評価の観点として設定する。
教育活動	③ 「心の教育」教育相談の体制作りと充実			
	●心の教育	教育相談・特別支援教育体制の確立	SCの活用・保護者の相談回数を増やす。 配慮を要する子についての校内研修を充実させる。	・教育相談だよりを定期的に発行し、保護者や児童への相談日を知らせSCの一層の活用を図る。 ・配慮を要する子についての教育相談研修会を年6回以上行う。また、指導の記録を記入する時間を設定する。 ・なかよしアンケートを6月に実施し、子どもの実態を把握し、学級経営に活かす。 ・個別の支援計画に基づき、子どもサポーターの効果的な活用と具体的な支援体制・方法を探る。
	【成果と課題】教育相談研修会、配慮を要する子の情報交換会を定期的実施したり子ども支援センターやスクールカウンセラーとの連携を図ったりできた。人権集会・平和集会を実施したり、なかよしアンケートをとったりすることで、子どもたちに人権意識・平和意識を高めることができた。学校が楽しいと答えている児童が96%いる。相談する相手がいないと答えている児童が10%に減っているが、今後も、気軽に話せる教育相談体制を整備したり、教育相談室の環境を整えたりしていきたい。			【評価】A 【継続】 【理由】 成果が見られるので新規の取組案も考えながら取り組む。
教育活動	○道徳教育			
	道徳指導の充実を図る	道徳の授業実践を充実させる。年間1回以上の授業公開。	・フリー参観デーや授業参(4月、10月、11月、1月)を活用し、保護者・地域の人に授業を公開して授業改善に努める。	
	【成果と課題】全学年でフリー参観デーの道徳授業公開を計画的に実施できたのでアンケートでも「命の大切さや思いやり」の項目が高いポイントで成果が上がった。学年・学校園の整備を計画的に行い、植物とのふれあいを子どもたちに味わわせている。全校集会の生徒指導の話で、いじめや命の大切さについて話したことも効果的だった。なかよしアンケートを活用し学級経営に生かしたい。また、道徳教育の年間指導計画の見直しを行い、行事や体験活動を効果的に取り入れた指導の充実を目指したい。			【評価】A 【継続】 【理由】 成果が見られるので、さらに要因を明らかにして取り組む。
④ 「生きる力の育成」基本的な生活習慣、学習習慣の定着				

教育活動	●健康教育	運動習慣の改善や定着化  望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	週3日以上、休み時間に元気に遊ぶ児童が70%以上をめざす。 食に関する指導を各学年、各教科領域で年間5時間以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動やあそびに使える用具（一輪車等）を児童が使いやすいように整備・設置する。</li> <li>昼休みに体育館を利用できる日を週に一回以上設定し、運動したり遊んだりできる機会を確保する。（6月まで）</li> <li>各学年の実態に応じて、学校栄養職員とのTTによる指導を年間1~2回行う。</li> <li>親子おにぎり弁当作りや会食を設定し、保護者と児童が共に食育について考える機会をもつ。（5月）</li> </ul>	
	【成果と課題】（体育）校舎建設工事で運動場が狭くなったが週に3日以上運動や遊ぶ児童は79%と目標を達成できた。しかし、「2日以下」も昨年同様2割を超え、外で元気に遊ぶ子とそうでない子の二極化が進んでいることは変わらない。体育委員会の取り組みで11月から始めた「なわとび検定」や「クラスみんなで遊ぶ日」をこれから積極的に呼びかけたい。また、各学級にサッカーボールとドッジボールと長縄を配布して、外で遊ぶ機会が増えるよう引き続き啓発していく。 （食育）栄養教諭配置により食育の授業を計画的に行った。また、掲示物を工夫したり、栄養教諭と給食担当が各クラスに入り食育の指導を行ったりできた。引き続き、家庭科や総合的な学習の時間で食や食材に関する内容で、食育を意識しながら指導していく。給食週間や授業参観等で食について考える取り組みも継続する。			【評価】B 【継続】 【理由】 十分な成果ではないが、継続して取り組みを強化する。	
教育活動	○生徒指導	望ましい生活行動様式の確立	共通理解に基づく生活指導を行う。 挨拶の励行を計画的、重点的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭教育指針のふり返しをする。（4月、6月、9月、10月、11月、1月、2月）</li> <li>挨拶の具体的な向上目標を学期ごとに決めて行う。1学期元気よく 2学期進んで 3学期心をこめて</li> <li>挨拶運動を運営委員会を中心に行う。（6月、9月）</li> </ul>	
	【成果と課題】校内で進んで挨拶、立ち止まり挨拶が定着してきた。朝の挨拶だけでなく、給食を取る時や来客の時にも進んで挨拶ができた。P（元気よく）S（笑顔で）J（適当な距離で）の合言葉をもっと前面に出して、更なる向上を目指したい。家庭教育指針の振り返りを実践して、基本的な生活習慣の意識付けが定着してきている。ただ、どの学年にも「早寝、早起き、朝ごはん」を守れていない児童がまだいるので、引き続き懇談会や生徒指導便りなどで、家庭に呼びかける必要がある。			【評価】B 【継続】 【理由】 少しずつだが成果は見られる。継続して取り組む。	
⑤「開かれた学校」家庭・地域・保護者との連携					
学校運営	○開かれた学校作り	家庭・地域との連携強化	学校ボランティア登録人数175人 関与授業時数50時（朝・通年を除く）	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援ボランティアの周知を進めることで登録者数の増加を図る。</li> <li>学校支援ボランティアの人数増により支援可能な授業種類の増加と学校の受入態勢を広げる。</li> </ul>	
	【成果と課題】二学期末時点の学校ボランティアは[のびのびタイム][読み聞かせ][野菜作り][9][海苔巻体験][3][安全確保(スケッチ会・遠足)][7][干潟体験][3]である。3学期は[書写][ミシン実習][廃油せっけん][和紙][昔遊び体験]を予定している。【 】内は授業時数。また登録人数は198人で目標を十分に達成できた。学校支援ボランティアの活用は5年目となり、地域への情報発信と本校の教育充実に成果を積み上げている。しかし、教職員「学校ボランティアの活用の工夫」の「よく」の割合が減少した。来年度は教育効果向上のために活用の工夫を図っていく。			【評価】B 【継続】 【理由】 成果が上がる一方で課題もあるので、取り組みを継続する	
⑥ 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目					
学校運営	○学校経営方針	重点目標の周知	学校目標を知っていると回答する割合を80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標の「あいあしのこ」の周知を図る工夫をする。</li> <li>児童や保護者が見やすい場所に掲示したりPTA総会で説明したりする。</li> <li>職員会議（職員）、全校集会（児童）等で十分時間をとって説明する。</li> </ul>	
	【成果と課題】アンケートでは、学校目標を「よく知っている」51%「だいたい」38%、計89%である。過去3年、75%→88%→89%と少しずつ高くなった。また、教職員全員が学校目標の具現化に向けて取り組んでいる。今後も学校のビジョンを明確にし、保護者への啓発や協力の依頼、具現化への手だて等についてさらに工夫を重ねる。			【評価】B 【継続】 【理由】 成果が見られる。更に工夫して取り組む。	
特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	小学校低学年の指導に関する計画書の内容を達成する	低学年の基本的な学習習慣と基本的な生活習慣の定着をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>話型、聴型を活用し、低学年から話を聞く態度を徹底して身につけさせる。</li> <li>生活ふりかえり表を作成する。低学年で共通した目標を設定し、基本的な生活習慣の定着を図る。</li> </ul>	
	【成果と課題】「目（相手を見て）・耳（最後まで）・心（うなずきながら）」を低学年の聞き方とし、常に意識させて指導を徹底した。合言葉となり、聞く態度を改めるようになった。「目・耳・心」の表の掲示や聞く人の受け言葉で、話し手の意識も向上した。家庭教育指針や毎日の生活振り返り表で生活・学習習慣を確認した。担任と保			【評価】A 【継続】 【理由】 基本的な学習・生活習慣の定着は学	

<p>護者の連携で定着した。生活・学習面で配慮が必要な子は、サポーターと連携して対応した。また家庭と連絡を取りあいながら進めた。今後も、低学年で身につけさせた力や態度を家庭・学校で共通理解を図りながらよりよい指導・支援を目指したい。</p>			<p>力向上に必須なので今後も工夫し、取り組み継続する。</p>
特定課題	○小中連携	小中連携の強化	<p>小中一貫を見据えた共通理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同の体育大会を開き小中のつながりを強める。</li> <li>・小中合同縦割り班によるあいさつ運動等の活動を行う。</li> <li>・小中学校の授業交流を計画的に実施し、芦刈メソッドの定着をめざす。</li> </ul>
	<p>【成果と課題】小中合同の縦割り班によるあいさつ運動・なかよし給食・なかよしタイム・クリーン作戦に取り組んできたことで、児童も教師も交流のよさを実感できるようになってきた。今後は、26年度4月の一貫校開校に向けて、現在行っている交流活動を一層充実したものにしていけるために、内容・計画等を見直し、改善していく。</p>		

## 6 総合評価

- 「確かな学力」－基礎基本の定着と学力の向上  
6年生の全国や県の学習状況調査等の結果では全国平均を上まわっており、学力向上の目標を達成できたと考えられる。国語A、国語Bともに県平均を上回り、なかでも国語Bの方が高い。これは知識として得たものを活用したり、応用したりする能力が付いてきたといえる。  
算数Aは全国平均を大きく上回り、算数Bも上回った。学んだことがきちんと身に付き、それを活用したり応用したりする力がついてきたといえる。来年度ものびのびタイムや習熟の時間など基礎的な計算力を身につける学習とともに、考える授業づくりに力を入れ、個に応じたきめ細かな指導を継続する。
- 「心の教育」－教育相談の体制作りと充実  
毎月全職員の参加による教育相談研修会、配慮を要する児童の情報交換会を実施したり、小城市子ども支援センター、スクールカウンセラーと連携を深めた。なかよしアンケートやQUテストを実施して、担任が実態を把握し教育相談に活かした。  
児童へのアンケートでは、学校が楽しいと答えた児童が96%である。しかし、気を緩めることなく、全国的に注目されたいじめ問題を我が校にも起こりえることとして真摯に取り組むたい。今後も気軽に話せる教育相談体制を整備したり、掲示コーナーを設置したりして安心安全な学校づくりを進める。
- 「生きる力の育成」－基本的な生活習慣、学習習慣の定着  
芦刈中学校区の幼稚園、小学校、中学校には、基本的な生活習慣定着のために共通の「家庭教育指針」がある。本校は年間7回の「家庭教育指針強化週間」を設け、学校と家庭が連携して取り組んでいる。  
この取り組みにより、早寝、早起き、朝ごはん、挨拶の励行などの基本的な生活習慣が向上している。また、学年毎に定めた学習の時間を目安に毎日行う家庭学習の習慣はほぼ定着している。生活リズムの面でも学力向上の面でも効果的である。課題は、高学年になると就寝時刻が遅くなっていることである。  
平成26年度の小中一貫校開校を見据えて、小学校、中学校9年間を見通した取り組みをめざしている。
- 「開かれた学校」－家庭・地域・保護者との連携  
「ホームページ」「学校だより」「小中一貫だより」「きめ細かな指導だより」「学級通信」等により保護者に情報を発信している。学校支援ボランティアの活動は今年度も継続して、いろいろな学習や活動に力を貸していただいている。今年度の登録者数は198人と増加した。児童は幅広い体験活動や内容の深い学習ができています。また、参加された方々は学校や児童の良き理解者として地域に情報発信し、開かれた学校を推進する力ともなっている。

## 7 来年度の改善策

今年度の取り組みを継続しながら、次の4点を重点目標として取り組む。

- 「確かな学力」－基礎基本の定着と学力の向上  
特設タイムを利用した「読み・書き・計算」等の基礎力を育成する。  
授業過程、児童の学習方法、家庭学習など足並みを揃えることにより向上した学力を更に伸ばす。  
来年度は、小中合同で校内研究を推進していくことにより、9年間を見通した指導について探る。
- 「心の教育」－教育相談の体制作りと充実  
児童や保護者が気軽に相談できる教育相談体制をつくり、いじめを許さない学校をつくる。  
ふれあい道徳をはじめとした道徳教育や体験活動、人権教育の充実を図る。  
あいさつとことばづかいの指導を充実させる。
- 「生きる力の育成」－基本的な生活習慣、学習習慣の定着  
「家庭教育指針」により家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の定着をめざす。  
早寝、早起き、朝ごはん、あいさつの励行、家庭学習習慣の定着をめざす。  
縦割り班活動や体験活動、勤労奉仕的な活動の実践に取り組む。
- 「開かれた学校」－家庭・地域・保護者との連携  
学校支援ボランティアの更なる充実を図りながら開かれた学校の取り組みを進めていく。  
小城市統一フリー参観や授業参観などの機会を生かして保護者、地域に学校を開く。  
学校からの文書、ホームページ等による情報発信により、家庭、地域、学校の連携を進める。